

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330152

研究課題名(和文)ポスト工業社会における男性の健康と医療化

研究課題名(英文)Men's health and its medicalization in post-industrial society

研究代表者

山中 浩司(Yamanaka, Hiroshi)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：40230510

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は近年欧米において急速に進んでいる男性の健康の問題化と医療化について、日本における男性の自殺、肥満、更年期障害の問題のされ方、またそれらに関する社会的提言を行うことを目的として行われた。調査は、特に男性の自殺、特定健診制度における男性の肥満の扱われ方その効果について、聞き取り調査と現地調査を実施し、中高年男性の自殺における男性的規範の影響と、肥満の医療化における問題点を明らかにした。これらは、国内外の学会で報告され学術論文として発表を行ったが、同時に、5回の一般公開シンポジウムを開催、その模様をウェブサイトにおいて公開した。2015年度中に、一般向けの著作2冊の公刊(阪大出版会)を予定。

研究成果の概要(英文)：We have been investigating how men's health is problematized and medicalized in Japan dealing with three specific topics, men's suicide, men's obesity and men's menopausal disorder. The main investigation was conducted in the field of suicide and obesity using qualitative research methods. We found that culturally held idea of masculinity exert great influence both on suicide and obesity medicalization. We reported the findings in academic conferences and professional papers along with the symposiums open to the public (five symposiums collecting 600 audiences in total). We also are scheduled to publish the books on men's problems in Japan in two volumes at Osaka University Press.

研究分野：医療社会学

キーワード：ジェンダー 男性 医療化 健康 自殺 特定健診制度 肥満

1. 研究開始当初の背景

2000年以降、医療関係者、心理学者、社会学者の間で「男性」ジェンダーと健康問題との関連性が強く指摘されている。すべての先進工業国において男性の平均余命が女性よりも有意に低いことはよく知られているが、こうした傾向は特に死亡原因が感染症、妊娠、出産から、生活習慣が強く影響する慢性疾患に推移した第二次大戦後に顕著になり、生物学的要因以外に社会文化的要因が強く影響していることをさまざまな調査結果が示唆している。ドイツでは2010年には「男性健康報告書」(Bardehle & Stiehler 2010)なるものが出版され、生命と健康維持に関して女性と比較した男性の相対的に大きなリスクについて詳細な報告がなされている。問題は、幼少時の男子の危険な行動に始まり、飲酒、喫煙、食生活、生活様式から、病にかかった際の医療行動、他者とのコミュニケーションのとりかたにいたるまで、あらゆる領域に及び、今や先進国に於いて「男性であることは、早死にする最大の人口学的単一リスク要因」(Kruger & Nesse, 2004)とまで言われるようになり、多くの「男性的」行動が予防医療的関心の対象となりつつある。先進国に於いて共通にみられる「男性性」のこうした「医療化」の動きは、また、多くの社会学者の関心を集めるにいたり、ジェンダーと医療化についてのさまざまな議論を呼ぶにいたりしている。この問題は、ADHDや自閉症のように近年激増している疾患とジェンダーの関係、肥満や喫煙や男性更年期をターゲットにした医療化の動き、これらと製薬会社や国家政策との関連など、社会的にきわめて重要なトピックを含んでいる。

2. 研究の目的

本研究では、当初1)肥満、メタボ健診における男性の健康行動の医療化、2)男性の自殺、3)男性更年期障害(andropause)の3つの領域における男性性の医療化への動きについて検討を行うこととしていたが、予算の都合により1)と2)に集中し、社会的提言として公開シンポジウムの実施と著作の出版を目的とした。

3. 研究の方法

1)については、新聞・雑誌記事分析、文献資料調査、関係機関への質問紙調査、関係者への聞き取り調査、指導現場へのフィールド調査を行う。2)については、文献資料調査、質問紙調査、対策関係機関への聞き取り調査を行う。3)については、患者への聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

今回の調査では、自殺と肥満の医療化について集中的に調査を行った。男性更年期障害については、申請予算より削減が大きかったため、今回は実施できなかった。男性の肥満の医療化は特定健診制度の導入によって顕著に進展したと考えられるが、臨床医や社会一般レベルでは、こうした医療化は受容されて

おらず、このことが特定健診制度の制度的不全に影響していることが確認された。これらの結果いずれも、欧米において生じたポスト工業社会への移行に伴う社会構造や価値観の変容を日本社会が十分に経験していないためと推測される。

男性の自殺については、自殺率に関する都道府県別・市区町村別など地域別データの分析から、自殺率の変化が地方部では失業率と関わりなく、一様に増加していることから、経済的要因と自殺率を媒介する社会的要因の存在を指摘するにいたった。また、若年層に対する質問紙調査によって、若年男子において職業地位と自殺願望の顕著な相関を見いだし、こうした相関が女性では見られないことからジェンダー規範に関わる社会構造的な要因の存在を指摘するに至った。また、新潟県と青森県における自殺対策関係者への聞き取り調査から、以下のような知見を得た。両調査において、ボンディングな関係をもつコミュニティがかえって自殺を促進するケースがあること、地縁がかえってマイナスに働くことがあること、男女の援助希求にはそれぞれ特徴があること(男性はメディアを介することが多いこと、またジェンダーの影響がいまもかなり強く影響していること)、地域によっては男性よりも女性の方が自殺が多くなるケースがあること、地方の家族経営の多さが自殺対策をかえって難しくしていることなど興味深い事情があきらかになった。また、未遂は男性にとって恥と感じられるため、男性は未遂を避け、死亡率が上がるなどを現場の方々の話を通じて、あらためて確認した。

研究代表者と分担者が行ったシンポジウムや講演会等において、参加者の数の多さや反応の大きさから、こうした問題が社会的に共有されていることを確認し、社会的ニーズが大きいと推測した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7件)

山中浩司、「テーマ別研究動向(医療)」『社会学評論』、査読有、63、2012: 150-165

伊藤公雄、男性主導社会からの脱出へ、『これからどうする—未来社会の作り方』査読無、2013、635-637

伊藤公雄、イタリアファシズムにおける身体文化、『21世紀のスポーツ社会学』(日本スポーツ社会学会編) 査読無、2013、218-231

Shimmitsu, S., Hirano, T., Yamanaka, H., Why males have higher suicide rate in most countries?, *International Journal of Evidence-Based Healthcare*, 11(3): 249

伊藤公雄、Emerging Culture Wars: Backlash Against “Gender Freedom”, Gender and Welfare States in Eastern Asia Confucianism or Gender Equality, Macmillan, 査読無、2014、137-151

平野孝典、社会的統合と自殺観、『フォーラム現代社会学』、査読有、12、2013、43-55

伊藤公雄、失われた『身体性』、『インパクション』、査読無、195、2014、52-63

Ito, K., The role of men and boys, JAWW NGO Report for Beijing +20, 2014, 67-70.

〔学会発表〕(計 15 件)

伊藤公雄、近代 = 男性主導スポーツのゆくえ、日本スポーツ社会学会国際シンポジウム、招待講演、2013.3.18、福山平成大学

伊藤公雄、男性学の展開と男性健康問題の浮上、関西社会学会、2013.5.18、大谷大学

阪本俊生・平野孝典、男性自殺率の規程要因に関する時系列的分析、関西社会学会、2013.5.18、大谷大学

古川岳志、特定健診・特定保健指導制度と男性の身体、関西社会学会、2013.5.18、大谷大学

山中浩司、男性健康の問題化とその背景、関西社会学会、2013.5.18、大谷大学

Yamanaka, H. & Furukawa, T., Social Aspects of national chronic disease prevention program, The 10th Conference of International Society for Clinical Bioethics, 2013.8.13, 釧路国際観光興隆センター

Yamanaka, H., Finding out the high-risk persons: some social aspects of the Japanese National Chronic Disease Prevention Program, 4S Annual Meeting, 2013.10.11, Town and Country Resort and Convention Center, San Diego, US.

古川岳志・山中浩司、特定健診・保健指導制度の意図せざる効果-指導現場のインタビュー調査から-、関西社会学会、2014.5.24、富山大学、

Yamanaka, H. & Furukawa, T., Medicalizing the male obesity through metabolic syndrome, ISA World Congress of Sociology, 2014.7.17, Pacifico, Yokohama, Japan.

古川岳志・山中浩司、医療職と医療化のジェンダーバイアス、日本社会学会、2014.11.22、神戸大学

Ito, K. “Violence” and “Death” in modern and contemporary Japanese boy’s culture, International Symposium: Child’s Play, 招待講演、2015.2.27, University of California, Santa Barbara, US.

Ito, K. Gender Structure and gender policy in post-war japan, Japanese Australian Masculinities Symposium, 招待講演、2015.3.17, University of Wollongong, Thailand.

大村英昭、心霊の行方について考える、生き方死に方を考える社会フォーラム、2014.8.16、大阪大学中之島センター

山中浩司、生き方死に方を考える：人口高齢化社会における終末期のあり方、ナレッジキャピタル・サイエンスカフェ、招待講演、2014.12.3、梅田ナレッジキャピタル

山中浩司、21世紀の生き方死に方を考える、JASS 講演会、招待講演、2015.1.29、大阪明治安田生命ビル

〔図書〕(計 6 件)

性差の科学編集委員会(伊藤公雄)『性差の科学最前線』2013, Google Book, 107 頁

石蔵文信 『「男のうつ」治らなくても働ける!』2012、日本経済新聞出版社、238 頁

石蔵文信 『妻の病気の9割は夫がつくる』2012、マキノ出版社、176 頁

石蔵文信 『57 歳からの意識革命 人生を最後まで充実させるために』双葉書房

伊藤公雄・富士谷あつこ編 『フランスに学ぶ男女共同の子育てと少子化抑制政策』2014、明石書店、224 頁

山中浩司・伊藤公雄編 『戸惑う男たち 生き方編』(仮題)、2015、大阪大学出版会(予定)

山中浩司・大村英昭編 『戸惑う男たち 死に方編』(仮題)、2015、大阪大学出版会(予定)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ：<http://ikikata-forum.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山中 浩司 (YAMANAKA, Hiroshi)
大阪大学・大学院人間科学研究科・教授
研究者番号：40230510

(2) 研究分担者

大村 英昭 (OOMURA, Eisho)
相愛大学・人文学部・教授
研究者番号：30047485

伊藤 公雄 (ITO, Kimio)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：00159865

石蔵 文信 (ISHIKURA, Fuminobu)
大阪樟蔭女子大学・学芸学部・教授
研究者番号：50303970

阪本 俊生 (SAKAMOTO, Toshio)
南山大学・経済学部・教授
研究者番号：30215652

心光 世津子 (SHIMMITSU, Setsuko)
独立行政法人国立精神・神経医療研究センター・看護師
研究者番号：60432499

(4) 研究協力者

古川 岳志 (FURUKAWA, Takeshi)
平野 孝典 (HIRANO, Takanori)